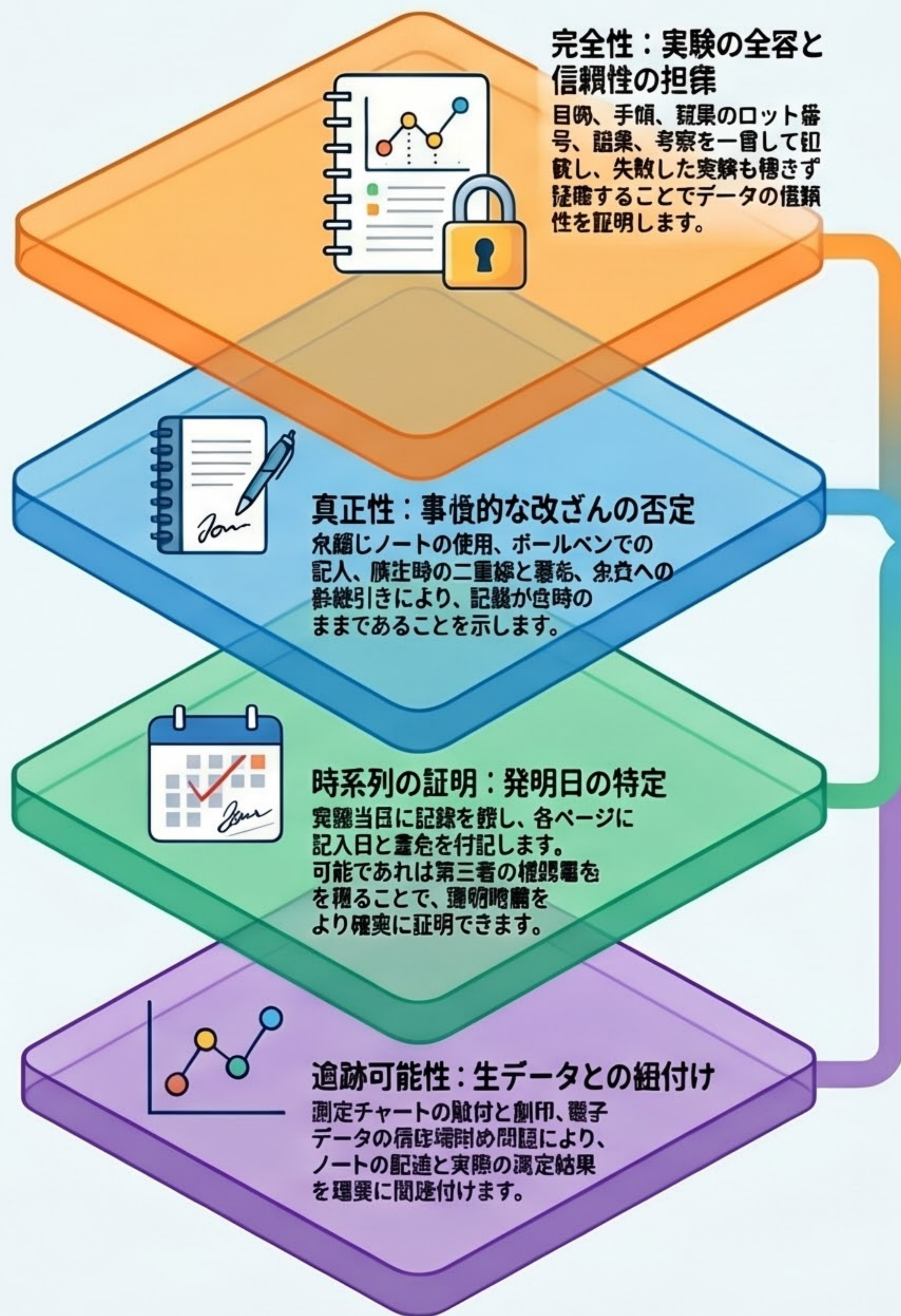


特許を勝ち取るための実験ノート：進歩性を証明する「比較例」の戦略的設計ガイド

実験ノートの証拠能力を高める「4つの基本要件」



進歩性の主張を支える「比較例」の役割



「予測できない有利な効果」を客観的に示す

特許審査で最も多い拒絶理由「進歩性欠如」を克服するには、先行技術と比較して置くべき効果があることをデータで示す必要があります。



化学・材料・医薬分野での重要性：
 構造から効果を予測しにくいこれらの分野では、実験データによる異付けが特許性の判断を左右します。

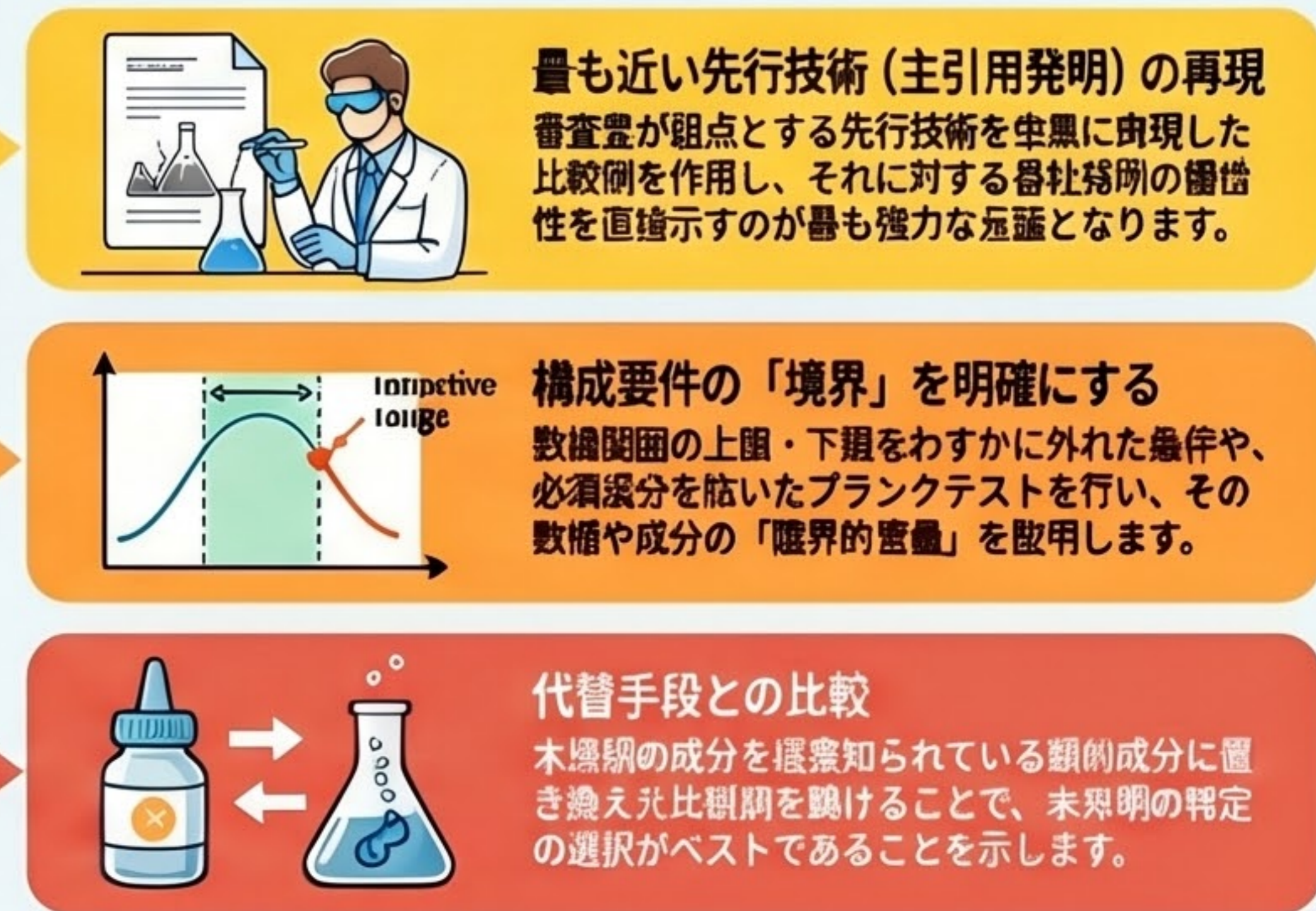
実施例と比較例の対比が不可欠

本発明の条件を満たす「実施例」と、満たさない「比較例」を食べることで、特定の構成を採用したことによる顕著な差異を浮き彫りにします。

法的証拠として認められるためのチェックリスト

要件	対策・記載方法
完全性	目的・手順・試薬ロット・結果・考察を漏らさず記載。失敗も記録する。
真正性	糸綴りノート、消せないペンを使用。修正は二重線+署名。
時系列	実験当日に記入・署名。第三者確認。
追跡可能性	生データの貼付・割印。電子データの保存先明記。

効果的な「比較例」の設計戦略



実験ノートへの具体的な記載ポイント



比較の「目的」を具体的に明記する
 「特許出願Aの実施例」を選択する「成分Bの添加量が劇的な場合の硬化不良を確認する」など、目的を明確にするための比較を記載します。



条件の差異を一覧化（表形式の活用）
 実施例と比較例で「何が同じで、何が違うか」を一目で把握できるように、表形式を用いて条件を整理し、ノートに貼付または記入します。



ネガティブな結果こそ詳細に記録
 比較例において「失敗した」「性能が落ちた」という結果は、本発明の優越性を示す重要な証拠となるため、写真や数値で詳細に記録します。

